

# LOBO 調査

## 早期景気観測

8月分 日商調査日 8月8日～20日  
当所調査日 8月8日～22日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

### 日商調査

8月の全産業DIは▲15・4  
(前月比+0・9ポイント)

小売業は、百貨店が引き続き好調なほか、猛暑に伴う飲食品や夏物商材の需要増で改善した。卸売業は、飲食品関連の引き合い増で改善し、建設業は、公共工事の下支えで改善した。

一方、サービス業は、観光業で夏休み需要の恩恵が見られたものの、消費者の節約志向や異常気象などによる外出控えが下押しし、ほぼ横ばいとなった。製造業は、企業の設備投資が伸び悩み、機械器具関係を中心に悪化した。実質賃金のプラス転換など、個人消費回復の兆しがある一方、原材料価格や電気代、輸送費などの高騰によるコスト増は続いている。また、人手不足の中、賃上げなどに向けた価格転嫁も追い付かず、中小企業の業況は力強さを欠く。

### 先行き

先行き見通しDIは▲13・9  
(8月比+1・5ポイント)

長引く物価高による購買意欲の低迷に加え、深刻な人手不足による受注機会の損失や、継続するコスト増に対する価格転嫁の遅れなど、経営課題の山積みは続いている。

一方、定額減税や賃上げによる実質賃金のプラス転換で、個人消費の回復が期待される。また、酷暑乗り切り緊急支援による電気・ガス代の補助や歴史的な円安の一方でコスト減が見込まれ、先行きは微かに明るい兆しが見られる。

### 【関東ブロックの業況についてのコメント】

今夏は各地でお祭りなどのイベントがにぎわいを見せ、関連商品の販売量が増加し、商品不足になるほどだった。秋にかけても引き続き商品在庫の管理などに努めていく(服飾品小売業)。

夏休み需要の恩恵もあり、売上は堅調だった。しかし、猛暑や豪雨などの異常気象に加え、一番のかき入れ時であったお盆に「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたことで、想定よりも売上は伸び悩んでしまった(飲食店)。

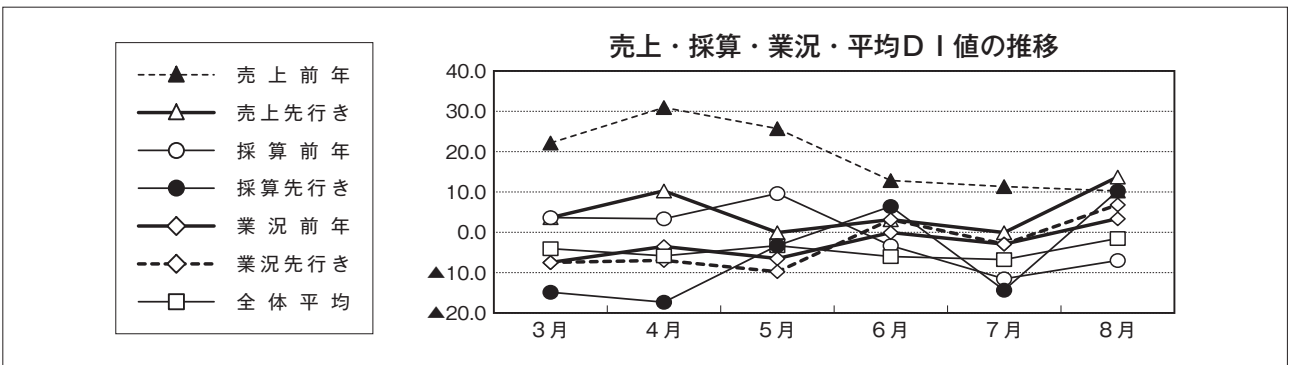
### 当所調査

「売上先行き、採算先行きともに改善傾向」

全体平均DIは▲1・4で前月に比べ+5・3ポイントの改善。項目別では、売上先行き+13・8ポイント、採算先行き+24・6ポイントと大きく改善が見られた。寄せられたコメントには「昨年比で売上が増加、先行きも上向きの兆しが見える(小売業)」といった改善の声があがった一方、人材確保など人手不足の影響も伺える。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和5年		令和6年					
	8月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
売上前年	▲ 6.3	22.2	31.0	25.8	12.9	11.4	10.3	
売上先行き	25.0	3.7	10.3	0.0	3.2	0.0	13.8	
採算前年	▲ 3.1	3.7	3.4	9.7	▲ 3.2	▲ 11.4	▲ 6.9	
採算先行き	9.4	▲ 14.8	▲ 17.2	▲ 3.2	6.5	▲ 14.3	10.3	
仕入前年	▲ 65.6	▲ 55.6	▲ 51.7	▲ 61.3	▲ 71.0	▲ 60.0	▲ 51.7	
仕入先行き	▲ 62.5	▲ 51.9	▲ 58.6	▲ 58.1	▲ 61.3	▲ 54.3	▲ 51.7	
社員前年	31.3	25.9	17.2	32.3	25.8	28.6	24.1	
社員先行き	28.1	25.9	17.2	29.0	22.6	20.0	24.1	
業況前年	▲ 3.1	▲ 7.4	▲ 3.4	▲ 6.5	0.0	▲ 2.9	3.4	
業況先行き	12.5	▲ 7.4	▲ 6.9	▲ 9.7	3.2	▲ 2.9	6.9	
資金前年	▲ 3.1	7.4	0.0	3.2	▲ 6.5	2.9	▲ 3.4	
資金先行き	6.3	0.0	▲ 10.3	0.0	▲ 3.2	2.9	3.4	
全体平均	▲ 2.6	▲ 4.0	▲ 5.7	▲ 3.2	▲ 5.9	▲ 6.7	▲ 1.4	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。